

【目的】糖尿病性腎症は慢性透析患者数の増加の最大原因であり、その効果的な治療薬の開発が社会的、医療経済的にも急務である。先に、我々は漢方方剤の糖尿病性腎症への影響を、1型糖尿病性腎症モデルを用いて検討し、八味地黄丸にその進展を抑制する知見を報告した¹⁾。本研究では、自然発症糖尿病モデル OLETF ラットを用い、2型糖尿病性腎症に及ぼす影響を検討した。

【方法】Otsuka-Long-Evans Tokushima Fatty (OLETF) ラット (♂, 22 週齢) と、正常対照として LETO ラットを用いた。八味地黄丸は 50, 100, 200 mg/kg 体重/日をそれぞれ 32 週間経口投与し、血中、尿中、腎組織中の成分を測定した。

【結果】血糖値は実験期間中、OLETF が LETO より有意に上昇し、24 週まで 190 mg/dl 前後の値を示していたが、八味地黄丸投与群では 16 週目以降濃度依存的に低下していた。OLETF の Ccr は、飼育期間中 LETO より低下していたが、32 週目では八味地黄丸投与群で上昇していた。一方、血清総コレステロール値と尿蛋白排泄量は八味地黄丸投与初期から有意に低下し、32 週目の腎組織中の AGEs, TBA-RS レベルにおいても著明な低下作用を示していた。さらに、TGF- β , fibronectin 発現量を western blot 解析で定量したところ、八味地黄丸投与群で過剰発現を制御していた。

【結論】八味地黄丸が 2 型糖尿病性腎症の進展抑制に有用である知見が得られた。

【文献】1) Yokozawa T., Yamabe N., Cho E.J., Nakagawa T., Oowada S.: A study on the effects to diabetic nephropathy of Hachimi-jio-gan in rats. *Nephron Exp. Nephrol.*, 97, e38-e48 (2004).